

前奏 黙想 (トーンチャイム)	讃美歌 147 よろこびたたえよ
讃美歌 155 空はうららに,風はそよぎ	聖餐式
祈禱	讃美歌 203 しずけくやすけき
信仰告白 使徒信条 566	献金 (トーンチャイム)
聖書 詩編 18:28~29	讃詠 547 いまささぐるそなえものを
マタイによる福音書 28:1~10	黙禱
讃美歌 148 すくいぬしはハレルヤ	主の祈り 564
説教 『復活はあの十字架と共に』	頌栄 540 みめぐみあふるる
祈禱	祝禱 後奏 (トーンチャイム)

「婦人たちは、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行った(マタイ28:2)。「恐れる」と「大いに喜ぶ」、この二つの感情は逆方向ではないのか。そりゃ落ち着いて状況を見極めることなどできないだろうが、二つの思いはぶつかり合っただけで沸騰した。女たちが長い衣をたくし上げてバタバタ走るのは、子供の頃以来。彼女らに何が起きているのか。輝く衣の天使との出会いとその御告げ(28:6~7)によって、女たちは大きく転換しようとしている。

女たちは己が悲しみを何とか納めようと、イエスの墓を見に行った(28:1)。そこにはローマの兵士が殺気立って見張っていたが、天使を見て「震え上がり、死人のようになった(28:4)」。逆に女たちは「死」の支配から立ち上がり、「新たな命」を身に帯び始めた。イエスの墓での両者のコントラストは実に印象的だ。底からふつつつ湧き上がる不可解な胎動に筋道をつけるかのごとく、天使は命じた。「恐れることはない(28:5)、あの方は死者の中から復活された。ガリラヤで再会する(28:7)と弟子たちに告げよ」と。天使がすべきことを示し、女たちは「死」を背にして、新たな命の方向へ走った。

女たちが大慌てで走っていると、イエスが行く手に現れ「おはよう(28:9)」と言った。これは「こんにちわ」とか「じゃあまたね」といった普通の挨拶言葉で、イエスを売り渡す際にユダも「先生、こんばんわ(26:49)」と使っている。この言葉でイエスは死に渡され、同じ言葉で新たな命が開かれようとしている。「イエスは言われた。[恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる](28:10)」。ガリラヤという原点での出発か。

十字架(金曜日)から復活(日曜日)の朝まで、僅かな時間経過だが、なんと濃密な時であろう。十字架の死は為政者にとっては勝利、弟子や女たちにとっては完全な敗北と挫折であった。イエスの復活は女たちや弟子の「死の絶望」に現れた奇跡。復活は誰もが了解しうる客観的な現象ではない。十字架で勝利した祭司長や長老にとっては、「復活」など面倒な後処理に過ぎない。だから番兵の報告を受けても(28:11)、狼狽もなく「弟子たちが夜中にやって来て、我々の寝ている間に死体を盗んで行ったと言え(28:13)」と買収した(28:12)。イエスの復活は、それを受け取る側のキリスト者の暗闇に起こる。

「主よ、あなたはわたしの灯を輝かし、神よ、あなたはわたしの闇を照らしてくださる(詩編 18:29)」。昔の詩人は知っていた。まことの希望が「わたしの闇」にあることを。キリストの復活は「わたしの灯を輝かす」主なる神による新たな命。私たちが復活の光をこの身で反射させ「わたしの灯」となる。「あなたは貧しい民を救い上げ、高ぶる目を引き下ろされる(18:28)」。勝利者の高ぶる目は引き下ろされる。十字架で挫折する「貧しい民」、女たちや、弟子たちや、私たちに光を灯し、救い上げる。

「わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会う(マタイ28:10)」。知らぬと否んでも、肝心な時に逃げ出しても、すべてを赦し「わたしの兄弟」と呼ぶその底知れぬ愛。私たちがその愛によって「私の十字架」に引き戻され、十字架と共にある復活の命をこの身に受ける。

長い受難節を過ごし 十字架に沈み込み 予兆なく復活が突如として起こる なんとという唐突さか  
クリスマスの奇跡が夜の中を進んだように 復活もまた長く深い夜の奥に輝く驚くべき曙光となる

イースターおめでとうございます。礼拝後に簡素な祝会をいたします。どなたでもご参加ください。  
来週は役員会。4/21の礼拝後は教会総会、会員の方は予定して下さい。4/14に総会資料を配布。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メールkomechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳伝道所」で検索して下さい。